

令和 7 年度園芸学会秋季大会シンポジウム課題

日時：令和 7 年 9 月 20 日（土）13:30～17:00（シンポジウムⅠ，Ⅳ），および 21 日（日）

13:30～17:00（シンポジウムⅡ，Ⅲ）

場所：高知大学朝倉キャンパス（Ⅰ）共通教育棟 231, 222,（Ⅱ）共通教育棟 231, 222,（Ⅲ）

共通教育棟 221, 212,（Ⅳ）共通教育棟 221, 212

Ⅰ．果樹ブランド化の新基調ー利用者との連携によるイノベーションー（公開シンポジウム）

コンビーナー：静岡大農学部 松本和浩	39
1. パティシエの立場から見た果樹ブランドの魅力と望まれる今後の連携と研究	
（株）洋菓子舗ウエスト 金子博文	40
2. 岩手県におけるリンゴのブランド化およびブルーベリーの普及活動	
岩手大農学部 渡邊学	42
3. 高知県における果汁用ユズ，ワイン用ブルーベリーのブランド化について	
高知大農林海洋科学部 濱田和俊	44
4. 「高知ユズ」のブランド化と試験研究機関の役割ー「物部ゆず」GI 登録の支援事例ー	
高知農技セ果樹試 谷本佑	46
5. 「クネンボ」栽培の復活とブランド化を目指した取り組み	
山口大名誉教授 五島淑子	48

Ⅱ．植物生体情報、遺伝情報や AI 技術を活用した栽培環境制御や果実品質制御（公開シンポジウム）

コンビーナー：農研機構野花研 笥雄介	51
1. ゲノムワイドマーカー情報に基づく多収・高糖度トマト選抜のためのスマート育種技術開発	
農研機構作物研 山本英司	52
2. オミクス情報と AI を用いた果実成分制御	
農研機構野花研 笥雄介	54
3. 多様な栽培目標に対応できる植物重量給液制御システムの開発と実用化	
静岡農林技研 大石直記	56
4. AI の判断に基づく高糖度トマト灌水制御	
静岡大学大学院情報学領域 峰野博史	58
5. 施設園芸向けしおれ検知式自動灌水制御システム(Hamirus:ハミルス)の開発	
株式会社クボタ 谷口啓介	60

Ⅲ．全ゲノム解読と花き園芸研究（公開シンポジウム）

コンビーナー：日本大生物資源科学部 奈島賢児	63
------------------------	----

1. カーネーションのゲノム解読とその後	
農研機構野花研 八木雅史	64
2. アジサイのゲノム解読とその利用	
日本大生物資源科学部 奈島賢児	66
3. キクタニギクのゲノム解読と野生ギク遺伝解析への活用	
高知大農林海洋科学部 中野道治	68
4. ゲノム情報が彩る花き研究の魅力	
かずさ DNA 研究所 白澤健太	70

IV. ポストハーベスト分野における生理学の進展と現場における最新技術の利活用（公開シンポジウム）

コンビーナー：日本大生物資源科学部 立石亮	73
1. 果実成熟におけるエチレン作用の生理的メカニズム	
ーエチレン生合成とシグナル伝達機構の解明ー	
日本大生物資源科学部 上吉原裕亮	74
2. エチレン作用阻害剤「スマートフレッシュ™」の現場での利活用の最新情報	
アグロフレッシュ・ジャパン合同会社 篠崎正己	76
3. AI 選果システムを軸とするスマート農業の展開	
シブヤ精機株式会社 二宮和則	78
4. ゲノム編集で作出されたトマト成熟変異体による成熟機構の解明とその利用	
農研機構食品研 伊藤康博	80